

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872700444		
法人名	社会福祉法人那珂の郷		
事業所名	グリーンヴィラ那珂		
所在地	兵庫県多可郡多可町中区牧野字国木谷166-9-1		
自己評価作成日	令和5年9月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和5年11月7日		

施設の周りは緑に囲まれ季節の移り変わりを感じながらゆったりと過ごされています。居室は南向きで日当たりもよくベランダに自由に入出入りでき花や野菜を育てておられます。居室内は広く窓も大きく外の景色を見ることができます。各コーナーにソファをおいて気の合う人同士で話されており職員は様子を見ながら輪の中に入り話をしています。料理は職員の手づくりでリクエストを聞きながら一緒に作っており利用者の持てる力を発揮できる工夫をしています

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3年以上に及んだコロナ禍の対応も万全で、利用者・職員から感染者をだすことなく乗り切った。設立19年になるが、事業所は地域に定着し、利用者9名は、事業所記入のごとく落ち着いた生活を送っている。これは地域密着型事業所本来の姿そのものと言える。コロナが感染症5類に移行した現在、前回の調査時に指摘し、目標達成計画にも上げておられた、利用者・家族・職員一同での食事会の開催が出来なかったのが残念だった。早期に実現されたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は介護の基本であり目のつく所に掲げている、毎月のミーティングで唱和し、共有し実践に繋げている	「家庭的な雰囲気提供」「利用者様の気持ちに寄り添いながらその人らしい生活の提供」「地域との輪を大切に」を理念に掲げ、毎月のミーティングで唱和し、全職員が共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため地域のお祭り、小学校の運動会、文化祭、高校生との交流などできなかった	コロナ感染拡大以前は、地域のお祭りや小学校の運動会、高校生との交流など行っていたが、コロナ以降は中断されている。コロナ収束後は日常的な散歩や馴染みの店を訪れたりしている。	理念の一つに「地域との輪(つながり)を大切に」と掲げている。災害時にも地域住民の協力は欠かせない。日ごろから地域とのつながりを大切にしていた。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケアネット高齢者部会、認知症カフェ等コロナ感染予防のため中止になっている。職員が認知症サポーター養成研修を受け地域に向け活かせるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	町福祉課、民生委員、家族が参加して行っていたがコロナ感染予防のため報告のみしていた。本年5月～開催し取り組み状況を報告した。家族にも報告している。	2ヶ月に1回開催している。町福祉課員、民生委員、家族代表が出席している。コロナ感染時には報告のみにしていたが、コロナも収束した現在は、会議も再開し、ホームでの活動報告や今後の予定、意見交換等を行い家族にも報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加、困難事例を相談し子供からの金銭的虐待を受けていた利用者を特別措置で後見人を付け、子供からわからない施設に移動してもらった	町職員が運営推進会議に出席されている。そこで報告、相談等を行っている。町担当課へ相談に伺うことも多い。子どもからの虐待や暴力のあった時、生活保護者の入院、特養入所についての相談等。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を特養と一緒にを行いマニュアルに基づき年4回研修会を行っている。	隣接する特養と一緒に身体拘束適正化委員会を設け、マニュアルに基づいて定期的に研修会を行い、職員の共有認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を身体拘束適正化委員会と同時に開催し年4回研修会を行っている。職員も外部研修を受け職員間で報告し共有している。	虐待防止委員会を設け、定期的に研修会を開いている。外部研修会にも参加し、参加した職員が全職員に報告し共有している。職員がストレスをためないように周りからサポートし、上手に対処できるようにしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	利用者の事例をとおし成年後見制度について職員間で研修をした。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を実施し、対応が必要と思われる利用者がある場合にはいつでも対応できるようにしている。行政と相談し、後見人をつけてもらったこともあった。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に施設の見学、利用者や本人の面会を行い不安や疑問に思っていることを説明し納得の上で入所を決めてもらっている。また改定の時も口頭と文書で説明している	契約時に、「運営規定」や「利用契約書」に基づき、サービス内容や利用料金等について詳細に説明し、施設を見学してもらった後、納得した上で契約していただいている。改定時には口頭と文書で説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りや家族様の来所持や電話で利用者の様子や予定などをお知らせし要望を聞くようにしている。また利用者の会話の中から思いを把握するようにしている	毎月のお便りで利用者の様子や予定をお知らせするとともに要望を聞いている。また、来所時や電話等で伺うこともある。利用者からは日常会話の中から汲み取るようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや個別に意見を出してもらい何でも話しやすい関係を築くように姿勢	職員が何でも話しやすい雰囲気をつくり出している。月1回のミーティングの時間を設けているが、日常の会話の中で職員の要望や希望が出て来ることも多い。職員の意見が運営に反映されたことも多々ある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の家庭環境や健康状態を把握しており誕生日にはメッセージを送っている。勤続表彰をしたり職場環境を整え資格取得や向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修をコロナ感染予防のためできなかつたが少しずつ研修を受ける機会を増やしている		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を行っていたがコロナ感染予防のため中止しているが様子を見ながら開催していきたい。一部の施設とは電話で感染や災害の取り組み状況など報告している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を基本としている。会話の中からや家族様の話の中から本人の思っていることや要望を聞き安心して生活出来るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活歴から困っていることや不安なこと、要望を訪ね施設でできること、できない事や他のサービスも説明し良いと思う方法を選んでもらっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の要望を訪ねどんな支援があるか、フォーマル、インフォーマルなサービスも説明し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩、目上として敬の心で接している。利用者に応じた得意分野を見極めお願いしますの心で接し感謝の言葉を表している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって家族とのつながりが一番であることを伝え、通院、電話や手紙をお願いしている。来所持やお便りで近状報告しともに本人を支えていく関係を築いている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防のため電話や玄関先、車の中でのみの面会になっている。また留守の自分の家には少しの時間帰宅してもらっている。	コロナ禍では、面会や外出にいろいろ制限があったが、コロナ収束後は、家族、親戚、友人との交流や馴染みの場所を訪れることを再開したいと願っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士訪室しあったり廊下やホールで話されている。様子を見ながら職員が中に入ったり訪室して話をして孤立しないようにしている。レクなども声掛けし、みんなで行っている、		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も機会を見つけ訪問したり家族に電話で近状を訪ね困ったことがあれば相談に乗っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族にはこれまでの生活歴、暮らしの希望など面会時や電話でたずねている。利用者には日々の関わりの中で表情や言葉の中から確認し気づきノート個人ノートで情報共有している	入居時には、本人や家族から思いや意向を直接聞き取り、入居中は、家族の来所時の会話や電話対応の中で、また本人とは日々の関わりの中で確認し、気づきノートや個人ノートに記録し、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの生活歴や前の担当ケアマネなども情報提供してしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶、バイタルなどからその日の体調を把握し、得意なことや出来そうなことをお願いしている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意見を把握し医師や訪問看護師の意見も参考にし、ケアマネや職員と話し合い作成している。毎月モニタリングし、必要に応じて変更している。体調に変化があればすぐに修正している	利用者や家族、医師、訪問看護師の意見を聞き、ケアマネや職員と話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングし、必要に応じて変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践その時の様子や言葉も記録し情報を共有し介護計画の見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族のない人や遠方で来られない人等受診や各申請などを行っている。また特養で予防接種や看護師に応急手当をもらったり、車いす対応時送迎してもらっている		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区運動会、祭り、神社参拝、なじみの店等行っていたが新型コロナウイルス感染予防のため中止している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は入所前のかかりつけ医を受診している。受診は家族対応でお願いしている。体調急変時は職員が対応している。歯科は必要に応じて往診してもらっている。	利用者全員が入所前からのかかりつけ医である。受診は家族対応となっている。体調急変時は職員対応となっている。必要に応じて往診もお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の気になることは訪看に伝え確認してもらいアドバイスしてもらっている。受診が必要な時は受診調整してもらっている。訪問時は利用者とも話して本人の気になる事にもアドバイスしてもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供し入院中も医療連携室と情報を密にし早期退院への支援している	かかりつけ医と相談して入院先を決めている。入院の際には介護サマリーを入院先医療機関へ提供し、入院中も医療連携室と情報交換を密にし、早期退院に向けて支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時重度化や終末期について施設で対応できること、できないことを説明し看取りも出来ないことを説明している。重度化したときは家族、医療機関や特養と連携し納得のいく方法を選んでもらっている	重度化や終末期に向けた事業所の方針は入所時に説明している。重度化した時には家族や医療機関、特養と連携し、最善の方法を選んでもらっている。看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し定期的に勉強会もしている。AEDも全員使用できるように訓練している。併設の特養とも連携し援助しあえるようにしている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルを作成し定期的に勉強会もしている。BCP作成中で特養と連携し援助しあえるようにしている。火災訓練はコロナ感染予防のため中止していたが8月に消防署指導の定期訓練を行った	災害時対応マニュアルが策定されている。また隣接する特養と連携し、援助し合えるよう事業継続計画を作成中である。火災訓練は年2回実施している。8月には消防署指導のもとに実施された。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上と常に言葉使いに気を付け接している。入室時はノックをしトイレ誘導も他の人にわからないように声掛けしている	常に目上として一人ひとりを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくよう心掛けている。命令口調や馴れ馴れしい言葉遣い、入室時のノック、トイレ誘導時の声掛け等。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を出してもらえるようにコミュニケーションをとっている。リクエストがあれば行っているし予定を言ってその中なら決めてもらうようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新型コロナウイルス感染予防のため施設内の生活になっているが変化を付けるため季節の行事や作品作りゲーム等希望に沿うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品が欲しいと言われたら購入しているし服装も1日のうちで交換されている。また髪を染められる方もいる。職員も言葉をかけている。爪切り、整容、髭剃りなどできる人にはお願いしている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いて献立を考えるとこもある。職員と一緒に調理し、食事と一緒にテーブルを囲んでいる。利用者が育てた野菜も持ってきてもらい食卓に出している。また出前などもとっている	献立から買い出し、調理まですべて事業所で行っている。調理、配膳、後片づけ等も利用者と一緒に、食事職員と一緒にテーブルを囲み会話を楽しんでいる。利用者と一緒に献立を考えたり、出前を取ったりして食事を楽しむ工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は特養の栄養士と相談している。食事摂取量 水分摂取量を記録し少ない利用者は代替品を出している個別に好みの物も家族と相談し対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる人、声掛けや誘導見守り介助が必要な人等個別に対応している。訪問歯科による口腔ケアや治療なども行っている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している人が5名、時々見守りの必要な人は2名、介護の必要な人は2名で時間を見ながら声掛けしたり様子を見ながら誘導している	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレへの誘導を行っている。自立している人が5名、見守りの必要な人が2名、介護の必要な人が2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や水分も多く摂取してもらえるようにしている。水分量もチェックして少ない人には好みの飲み物も用意している。体操も日課に入れている。利用者に応じた便秘薬も使用している		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はお知らせし好きな時間帯に入浴してもらっている。職員が1対1で対応し体の変化(浮腫や発赤)などもチェックしている。入浴剤にも変化を付け楽しんでもらっている	入浴は週3回。好きな時間帯に入浴してもらっている。職員が1対1で対応し、身体の変化等もチェックしている。入浴剤を使ったり、菖蒲湯や葛湯を作ったりして入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は活動を基本としひる食後は休息してもらっている。夜は安眠できるように明るさや騒音に気を付けている。眠れない人にはホールで職員と話をしたりホットドリンクを出している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書により一人一人の目的、副作用、用法、用量を理解している。準備は違う職員が2回チェックしている。服薬時は手渡し、飲み込むまで見守りし押印している。症状に変化がある時は申し送りし経過観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に合わせた役割、家事をお願いしている。居室で花を育てたり、ベランダで野菜を栽培している。施設内や駐車場の散歩、車内から降りないでドライブ等気分転換のくふうしている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため外出はできないが施設内や駐車場を散歩し季節感を感じたり日光浴で外気に当たっている	コロナ感染予防のため外出に制限はあったが、気分転換やストレス発散、日光浴のため施設内や駐車場内を散歩している。また月に1回はドライブを楽しんでいる。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ち日常で使うことは大切であり、自分で管理して買い物される方は1名。最近はお金のしまい忘れが多く職員が何回も探しており管理が難しくなっている。欲しいものを買ってきて支払される方が2名おられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられ方が3名。家族と話されている。また話がしたいと言われたら職員が電話し話されている。耳が遠くて会話が無理な方は手紙をお願いして代読し言われたことを電話で伝えている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は広く窓も大きく外の様子を見ることが出来る季節の花も生けている。廊下やホールにはソファを置き、和室もありそれぞれ過ごされている。廊下やホールは2回消毒液を使い清掃して感染予防に努めている。	リビングは南向きで窓も広く、外の景色を楽しむこともできる。ホールや廊下にはソファが置かれ、季節の花が生けられている。和室もある。利用者はそれぞれの場所で思い思いに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各コーナーや玄関屋外にソファやベンチを置き1人でまた気の合った人同士話をされている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は南向きで日当たりもよく自由にベランダに出入りできる。利用者はテレビ・縫いぐみ・タンス・テーブル・いす、植木、写真など持ち込まれゆったりと過ごされている。	居室はすべて南向きで日当たりがよく、自由にベランダに出入りできる。エアコンやベッドは常備されている。テレビ、タンス、テーブル、家族の写真等を持ち込み、居心地よい居場所づくりを楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベランダに出て毎日運動をしたり野菜や花に水をやりたりされる人、洗濯物を干したり取り入れてたたんでくれる人、掃除をしてくれる人等自分から行ってくれている、職員は感謝の言葉を掛け見守りしている		

基本情報

事業所番号	2872700444
法人名	社会福祉法人 那珂の郷
事業所名	グループホーム グリーンヴィラ那珂
所在地	兵庫県多可郡多可町中区牧野字国木谷166-9-1 (電話)0795-32-5165

【情報提供票より】令和5年8月21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 29年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 名
職員数	8 名	常勤	7 名 非常勤 1名 常勤換算 7.9 名

(2)建物概要

建物構造	単独型
	鉄骨造り平屋建て

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21000/30日 円	その他の経費(月額)	共益費 170円/日	
敷 金	無し		水道光熱費 570円/日	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有り(20万円)	有りの場合 償却の有無	室内クリーニング・清掃等	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,445円			

(4)利用者の概要(令和5年9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 90 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	多可赤十字病院 近藤内科医院 永谷歯科
---------	---------------------

目標達成計画

事業所名 社会福祉法人那珂の郷 グリーンヴィラ那珂

作成日: 令和 5年 11 月 13日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん揚げすぎて課題が集点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題点	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	入所時の面談や来所持に話し合い要望に沿えるように支援しているが、さらに外部へ表せる機会を設け運営に反映させる	利用者、家族等が意見要望を、管理者や職員、外部に発してもらい機会を設け運営に反映させる	新型コロナが感染症5類に移行しており利用者、家族、職員が揃う家族会(食事会)を適時に設け、意見、要望を出してもらい運営に反映させる。	24 か月
2					
3					か月
4					か月
5					か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入してください。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

- 1 ① ○
- ② ○
- ③ ○
- ④ 11月25日
- 2 ① ○
- ② ○
- ③ ○
- ④ ○
- 3 ① ○
- ② ○
- ③ ○
- 4 ① ○
- ② 11月末
- ③ ○
- ④ 11月25日
- 5 ① ○
- ② 11月25日
- ③ ○
- ④ ○

|

5、